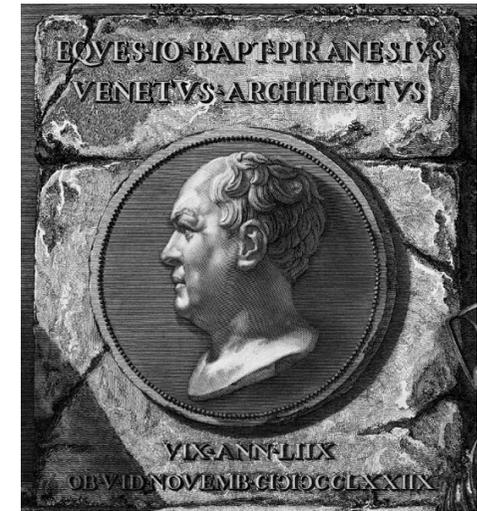


ピラネージ画像データベースの再構築 : Opere di Giovanni Battista Piranesiの再公開について

著者	中村 美里
発行年	2019-11-29
URL	http://hdl.handle.net/2261/00078926

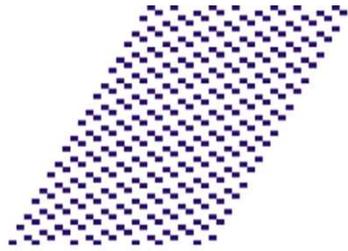


『Ritratto di G. B. Piranesi da F. Piranesi』
(東京大学総合図書館所蔵)

東京大学総合図書館所蔵 亀井文庫
ピラネージ画像データベース
Opere di Giovanni Battista Piranesi
の再公開について

附属図書館総務課／学術資産アーカイブ化推進室

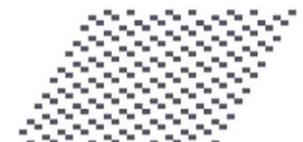
中村美里 NAKAMURA Misa

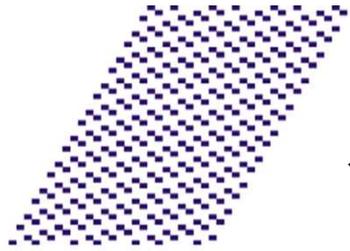


ピラネージとは

- ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ
Giovanni Battista Piranesi, 1720 – 1778
- イタリアの版画家、建築家
- 息子フランチェスコ・ピラネージ（1758-1810）の死後、ピラネージの銅版はすべて、著名な出版業者であったアンブローズ・フィルマン・ディド（1790-1876年）に買い取られる。
- 亀井文庫の『ピラネージ版画集』は1835-1839年にフィルマン・ディド兄弟出版社より発行された版（全29巻）。
- その後、ローマ法王グレゴリオ16世（在位1831-1846年）の指示により、1839年にピラネージの銅版はディドからローマに返還され、現在、ローマ国立銅版画博物館（Calcografia nazionale, Roma）に永久保存されている。

<https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/piranesi/page/about>



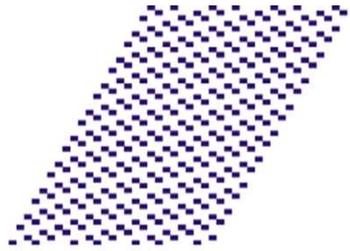


亀井文庫とは

- 東京大学総合図書館所蔵コレクション 1,958冊
- 旧津和野藩主の亀井茲明（かめい・これあき、1861～1896）がドイツ留学中に収集した美術研究資料。
- 茲明の死後、収集資料のうち書籍の大部分が最終的に東京大学に寄贈され、「亀井文庫」として総合図書館に収蔵される。
- 『ピラネージ版画集』もその一つで、亀井文庫の中でも貴重図書として保管されている。

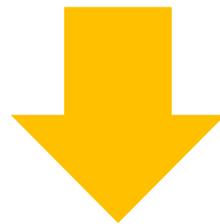
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/collectionall/kamei>





ピラネージ画像データベースの構築

- 1999～2003年度 特別推進研究（COE）「象形文化の継承と創成に関する研究」の実施。
- 稀覯本などの貴重文献資料のデジタル化、データベース構築が実施され、その成果の一つとして『ピラネージ版画集』のデータベースが公開される。



その後、システム運用の問題等から公開を一時停止

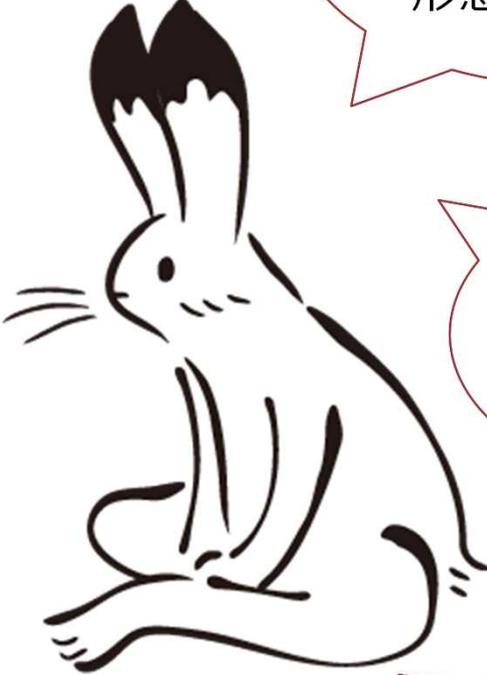


【とある日の打合せ】



次のデジタル化資料、
何にしましょう？

そういえば、
デジタル化されてる
って話があったような



亀井文庫の
ピラネージは？
人気は高いけど、
形態が大きいし

え、本当に？
どういうこと？

ちょっと、資料を
確認してみますわ

ぜ、全点
デジタル化
されてる！

もつたいない



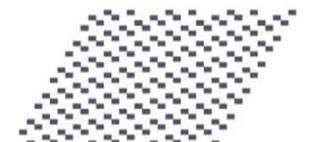
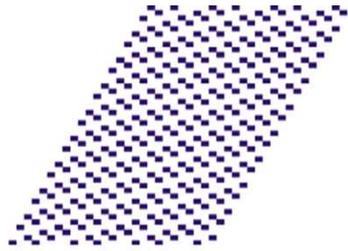
『百鬼夜行図』を改変
(東京大学総合図書館所蔵)

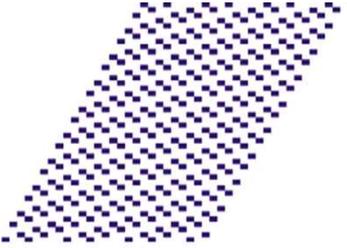
データベース復活に向けて

- 関連しそうな部署に複数お問い合わせ。
- 文学部美術史学研究室から連絡があり、国立西洋美術館の飯塚隆先生を紹介いただく。
- 国立西洋美術館を訪問し、現在デジタルアーカイブズ構築事業を推進していること、ピラネージのデータベースも復活させたいことを説明 → **快諾**
- データの提供を受ける → 推進室メンバーで確認。
何か足りない・・・？
- 追加のデータ提供 → **概ねデータが揃う**



- 停止中の公開サイトをローカルで見られるようにし、当時の提供サービスを確認。
- リニューアルサイトの準備
(書誌データ表示項目、画像とのリンク、ファセット項目選定など)

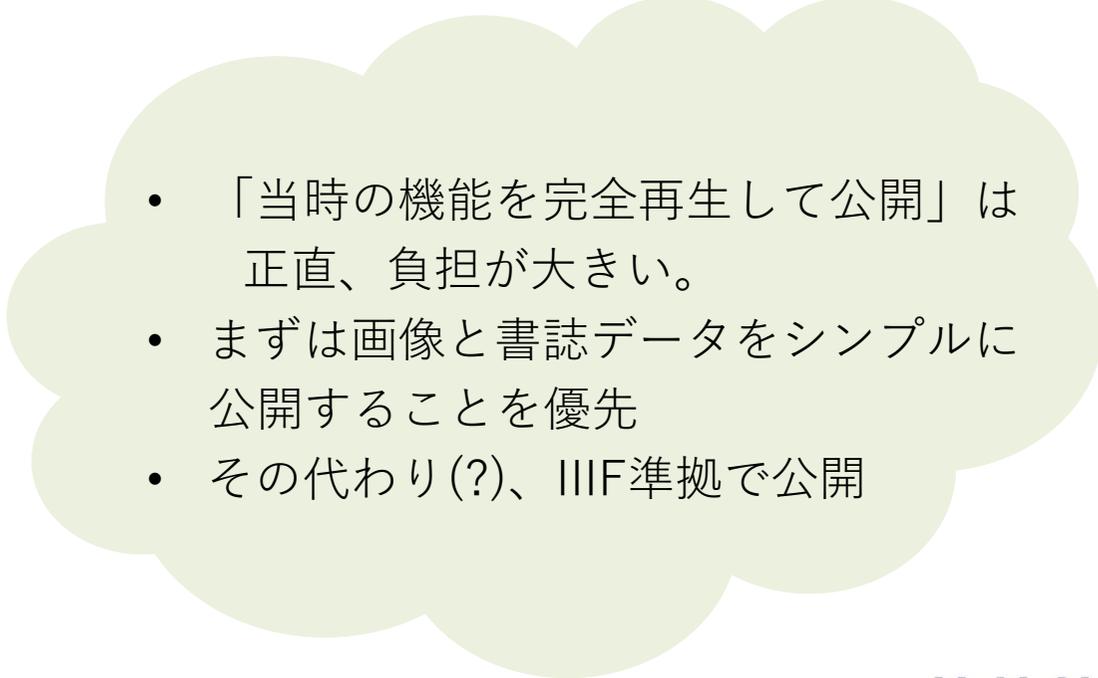




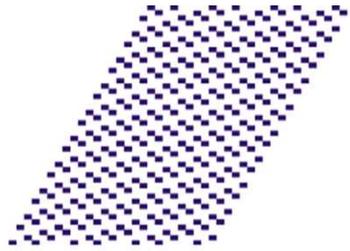
データベース復活に向けて

- 全巻目次からの閲覧 → 実現
- 作品検索 → 実現
- 主題によるカテゴリー別検索 → ファセット検索の提供
- ローマ地図から作品へ → 今後の実装



- 
- 「当時の機能を完全再生して公開」は正直、負担が大きい。
 - まずは画像と書誌データをシンプルに公開することを優先
 - その代わり(?)、IIIF準拠で公開





より利用しやすく

せっかくの再公開&IIIF公開
利用条件も緩和したい・・・

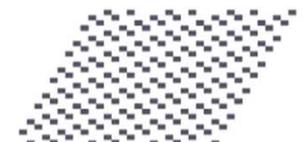


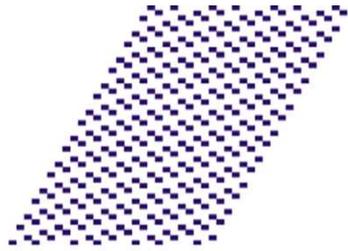
良い機会だから、
提案しちゃおうかな

- 東大のアーカイブズ事業は、データの活用促進も重要視していること
- 総合図書館では2018年6月から、自館所蔵資料を公開する場合は、利用目的を問わず、特段の手続きなく利用できるようにしたこと
などを説明

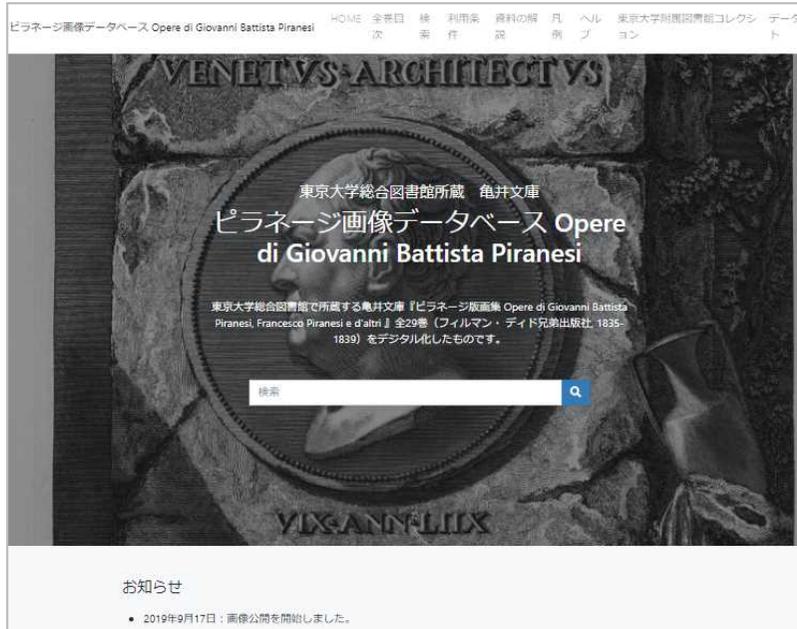


快諾

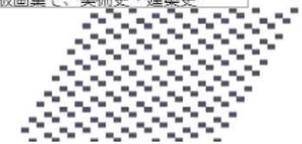


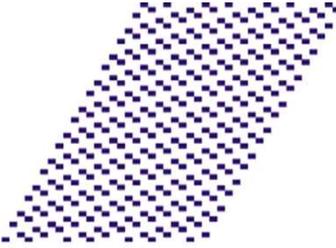


2019年9月17日 リニューアル公開



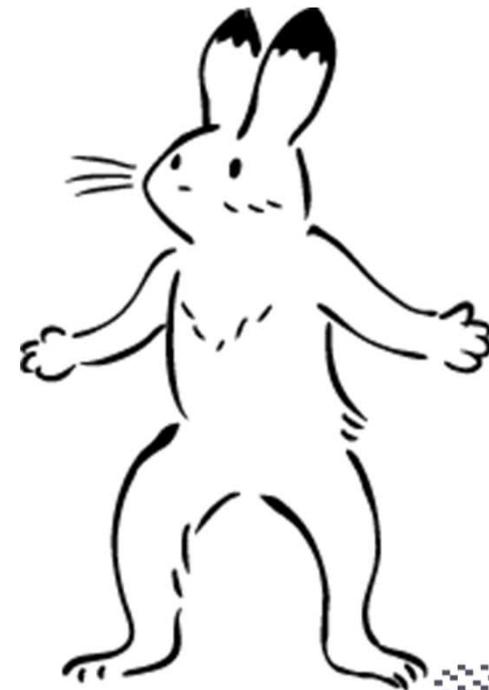
- 総合図書館Twitterで、恐らく過去最高のリツイート数、いいね数をいただく結果に！



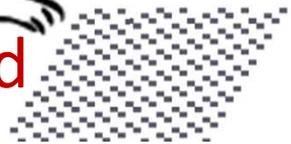


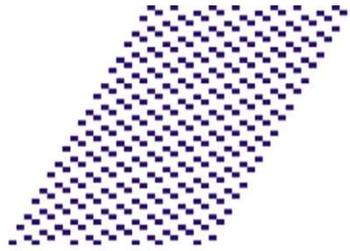
デジタル化資料の再公開

- なんらかの問題で公開が止まっている画像（特に内容に問題があるのではなく、システム面での問題がある場合）、まずはシンプルにでも公開を行うことが大事。
- できれば、独自色の強すぎない、汎用性のあるシステム、形式での公開を。
- できれば利用条件の緩和も！
（オープン化への抵抗感は薄れてきている？）
- 公開停止をデジタルアーカイブ、データベースの終了と決めつけずに。
- 現在の技術なら、再公開へのハードルは低くなっていることも。
- とにかく画像とメタデータがしっかりと保存されていれば何かしら利用してもらえる環境は作れる（はず）。



open mind





データベース復活の事例

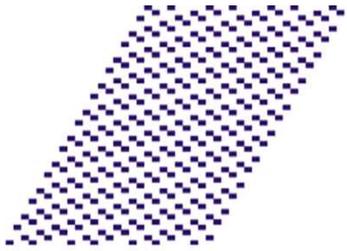
琉球大学附属図書館

矢内原忠雄植民地関係資料データベースを琉球大学学術リポジトリに移管しパブリックドメインで公開

<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/yanaihara/>

JPCOAR（オープンアクセスリポジトリ推進協会）研究データタスクフォースの協力のもと、2018年5月に再公開





デジタルアーカイブズ構築事業では、予算や人員の限りもあり、
「データベース復活案件なんでも引き受けます！」と言える状況
ではありませんが・・・

復活事例を共有しノウハウを積み重ねていければ

